

段落内の文字の配置（和文）

ここではさまざまな文字の配置例を紹介します。

text-align="left"

書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。
拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="left" text-indent="1em"

書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。
拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="left" text-indent="20mm"

書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。
拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="left" text-indent="-1em"

書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。
拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="center"

書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。
拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="right"

書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。
拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="inside"

文書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="outside"

文書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="justify"

文書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="justify"

text-align-last="right"

文書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="justify" text-indent="1em"

text-

文書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="left" text-align-

last="right"

文書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="left" text-align-last="center"

文書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。

text-align="right" text-align-last="center"

文書類の電子化の方法として 1986 年に SGML が ISO 標準となった。拡張性/構造化/正規性にすぐれた仕様であり、1990 年には特許庁の電子出願のフォーマットに採用されたが、500 ページを超える膨大な規約は理解しづらく、導入するにあたり初期費用がかさむといった問題点があった。